

○本資料は「国立駅周辺まちづくり基本計画」をベースに作業班で作成したものである。  
今後、まちづくり会議での意見をもとに本資料に示した考え方のブラッシュと具体のデザイン検討を行っていく。

# 国立駅周辺まちづくりの方向

## 1 国立駅周辺まちづくり基本計画の概要

### (1) 国立市の特性

#### ■ 文教都市としての香り高い文化をあらわす街並み

- ・ 広い歩道を備えた緑豊かな大学通り
- ・ 駅前の円形公園から放射状に伸びる「通り」を骨格としたまちなみ
- ・ 駅、駅前広場、大学通りなどを骨格とした象徴的な景観
- ・ 個性ある商店街、学園、緑

#### ■ 南部に広がる自然豊かな環境

- ・ 都市農業を育む土壌、国立野菜
- ・ 歴史ある文化・自然  
(ママ下・矢川、城山、谷保天満宮など)

### (2) 既往計画における国立駅周辺の位置づけ

#### ■ 国立の玄関口として重要な地域

##### 【第四期基本構想（平成18年度）】

- ・ 受け継がれてきた景観を大切にする
- ・ 市民生活と結びつき、賑わいと魅力がある商業空間

##### 【都市計画マスタープラン（平成15年2月）】

- ・ 都市拠点の形成
- ・ 文教都市にふさわしい景観の形成
- ・ 駅周辺での総合的な交通体系

### (3) 国立駅周辺まちづくりの理念・目標

#### まちと人がつながる、緑と文化のくにたち広場

暮らしや文化を育み、人々の力を生み出す、国立市における景観まちづくりの創造

「人」はまちづくりのななめであり、人と人がつながっていくことでまちも元気になっていきます。  
みんなでつくる国立駅周辺の空間が、暮らしや文化をはぐくみ、人びとの力を生み出し、美しい景観を創造していきます。

#### ① 市民が集い、来訪者を迎え、賑わいと交流のあるまちづくり

- ・ 駅前には様々な交通機能や人が集まる重要な交通結節点である。
- ・ バス乗降場、タクシープールを適切に配置し、駅前空間の通過交通などを抑制することにより、車中心の現在の駅前広場を人中心の広場に転換する。
- ・ また、円形公園や旧駅舎の活用とあわせて、市内外の人々が集う交流拠点（くにたち広場）を創出し、駅周辺の歩行者ネットワークの中核とする。

#### ② 人にやさしい、安全で安心な環境づくりや環境負荷低減のまちづくり

- ・ 安全対策を検討した上で西1条線や都市計画道路3・4・10号線などの南北の交通動線を整備する。
- ・ また、駅周辺における南北の通過交通の円滑化や交差道路の整備を進めることにより、駅周辺の交通の分散化を図り、現在の交通混雑に環境負荷を低減する。
- ・ 同時に、公共交通や自転車の利用促進を図り、市内の自動車交通を減少させ、低炭素型の次世代まちづくりを目指す。

#### ③ 駅周辺の景観とシンボルをいかしたまちづくり

- ・ 旧駅舎の復原・活用と駅周辺のならではのシンボル性を高め、他駅にはない国立というまちの景観の価値を高めることを目指していく。

#### ④ 個性的なまちなみをいかした回遊性のあるまちづくり

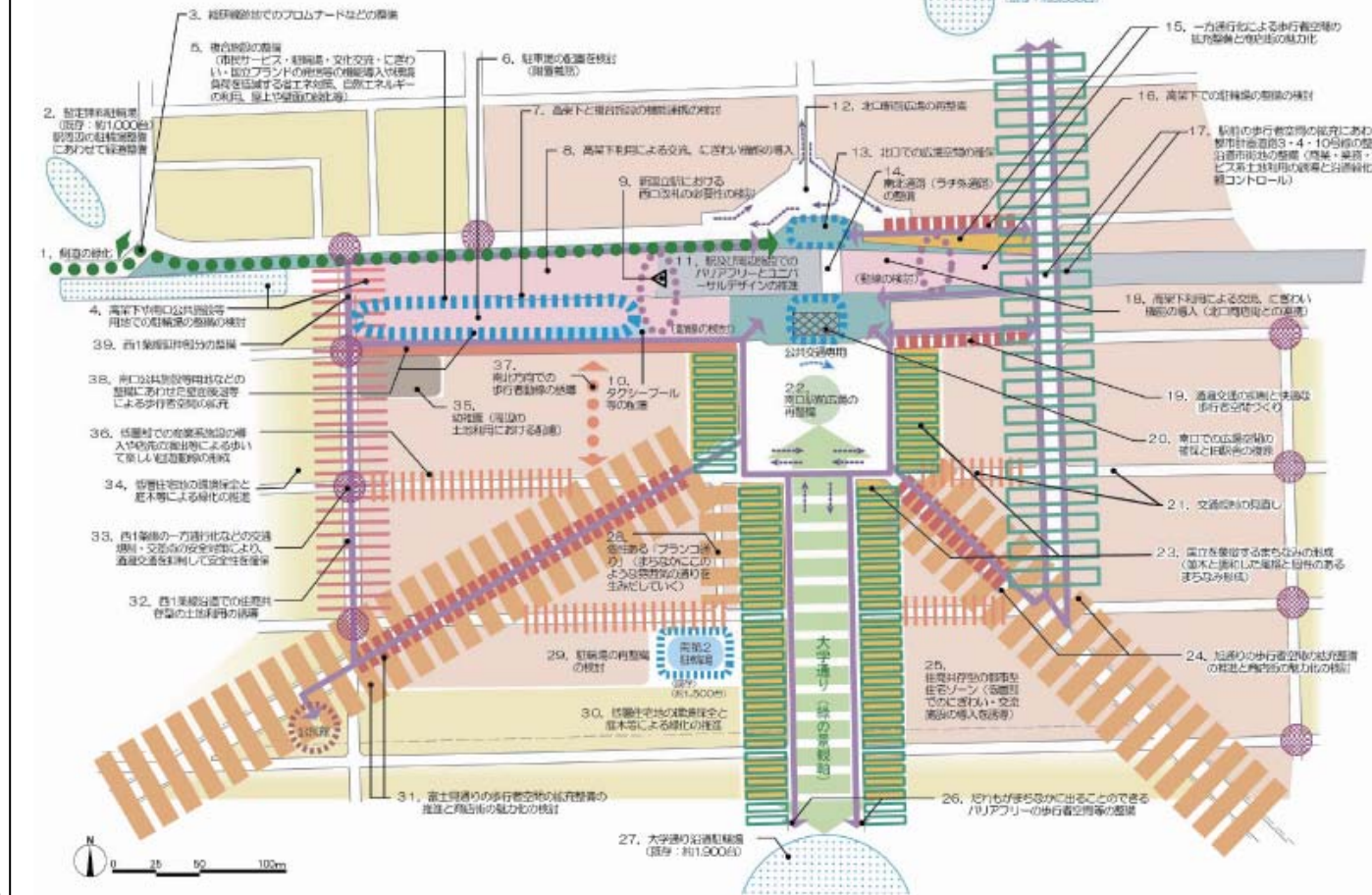
- ・ 大学通り、富士見通り、旭通りのメインストリートだけでなく、それらを東西方向につなぐ道路には、駅周辺の落ち着いた雰囲気の特徴づける個性的な店とまちなみが広がっている。
- ・ 高架化による南北市街地の一体化及び駅周辺の適切な交通処理による歩行者空間の創出により、南北駅前広場を中心に安全・快適に人々が回遊できる動線づくりを目指す。

#### ⑤ 出会いと発見を発信するまちづくり

- ・ 駅周辺では行政サービス施設・文化施設や福祉施設など、市民の生活を支える施設の不足が指摘されている。
- ・ これらの公共・公益施設を駅周辺の高架下や複合施設などに適切に配置し、まちづくりの拠点となる施設整備を「様々な出会いや発見があり、国立市からの文化を発信する駅前ゾーン」とする。
- ・ また、駅周辺を利用する市民のための駐輪場や公共・公益施設を利用する市民のための駐車場・駐輪場を配置する。

### (4) 国立駅周辺のまちづくり計画

図 国立駅周辺まちづくり全体の計画図



#### ○ 南北駅前広場

- ・ 国立らしい文化を発信する駅前空間の創出
- ・ 北口における新たな魅力づくり、交通結節点の整備
- ・ バリアフリー環境の整備
- ・ 旧駅舎の復原・利用

#### ○ 南口駅前広場

国立らしい文化を発信する駅前空間の創出

#### ○ 旧国立駅舎の復原

「まちづくりの駅」としての活用

#### ○ 北口駅前広場

北口の新しい魅力づくり、交通機能の整除  
総研線跡地、北1号線

#### ○ 都市計画道路3・4・10号線、西1条線延伸部分

南北方向の交通ネットワークの形成

#### ○ 南口公共施設等用地

国立らしい文化を発信する駅前空間の創出

#### ○ 高架下

(駅東側) 新たなにぎわいづくり  
(駅西側) 南北市街地をつなぐにぎわい空間の形成

# 国立駅周辺まちづくりの方向

## 2 国立駅周辺まちづくりの展開方向

### (5) 国立駅周辺まちづくりの将来像

#### ○豊かな居住(生活)環境・自然環境が連携・調和するまち (国立市民の生活・生きがい・健康・福祉)

- ・国立駅を中心に商→住→田園・自然と展開する市街地
- ・多様な世代(学生、子育て、高齢者)の居住
- ・一橋大学の学生、高齢者(リタイア層)の増加

#### ○歩いて巡る楽しみ(多様な居場所)

- ・国立駅を中心とした半径400mに集積する商業空間
- ・放射状道路による「角」の多い街並み
- ・四季の変化を楽しめる緑豊かな空間
- ・隣接市と比較して相対的に低い自家用車保有率

#### ○成熟した市民文化

- ・多分野に及ぶNPO・市民活動
- ・NPO・市民活動などコミュニティスキルの高い人々の存在
- ・文教都市特有のコミュニティ活動(一橋大学の地域貢献など)
- ・地域ブランドなどの新たな活動(国立野菜、スイーツ)

#### ○魅力ある買物環境

- ・こだわりある個店を中心とした店舗構成(ギャラリー、喫茶店、菓子店、美容室等)
- ・もてなしを表現した店舗(「利便」だけではない「快適」「心地よさ」を表現)

#### ○国立市民及び国立駅周辺に暮らす人々の“生活中心”としての国立駅周辺(交通結節点⇒生活結節点)

#### ○魅力的な個店を巡り、緑が広がるまちの活気を感じながら、「歩いて」まちを楽しむ国立駅周辺の魅力の発展

#### ○南部の自然資源の発信

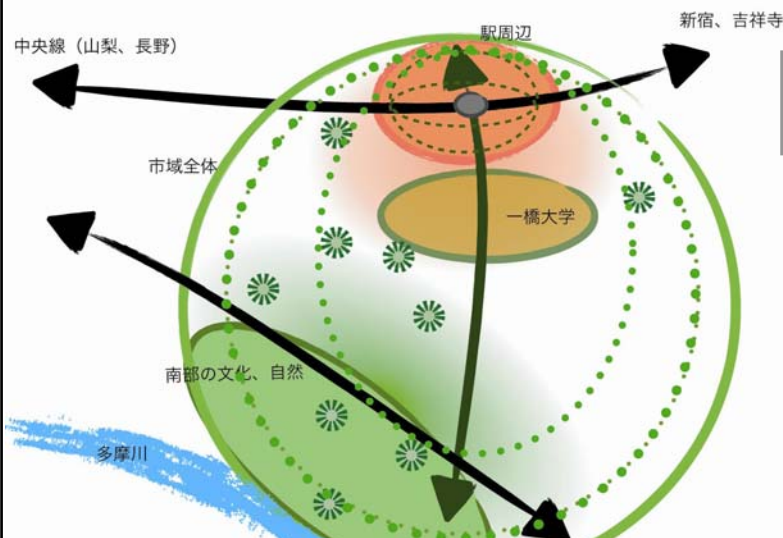


図 国立駅周辺まちづくりのコンセプト  
(注)「国立駅周辺まちづくり基本計画」をもとに作業班作成。

### (6) 国立駅周辺の空間構造

#### ■国立駅周辺の格となる「通り」

##### ○駅周辺の歴史的遺産としての「通り」

- ・大学通り・旭通り・富士見通り

##### ○国立駅周辺の新たな交通ネットワークを形成する「通り」

- ・都市計画道路3・4・10号線
- ・西1条線

##### ○安全に快適に駅周辺を回遊できる歩行者空間を実現する「通り」

- ・北1号線・総研線跡地
- ・西1号線・東1号線
- ・西3号線・東3号線

#### ■駅周辺の魅力を高めるゾーン

##### ○国立市を代表するシンボル空間、市内外の人々が集う交流拠点・新たな共有財産としての「ゾーン」

- ・南北駅前広場

##### ○国立市民の新たな生活文化発信拠点としての「ゾーン」

- ・南口公共施設等用地
- ・高架下

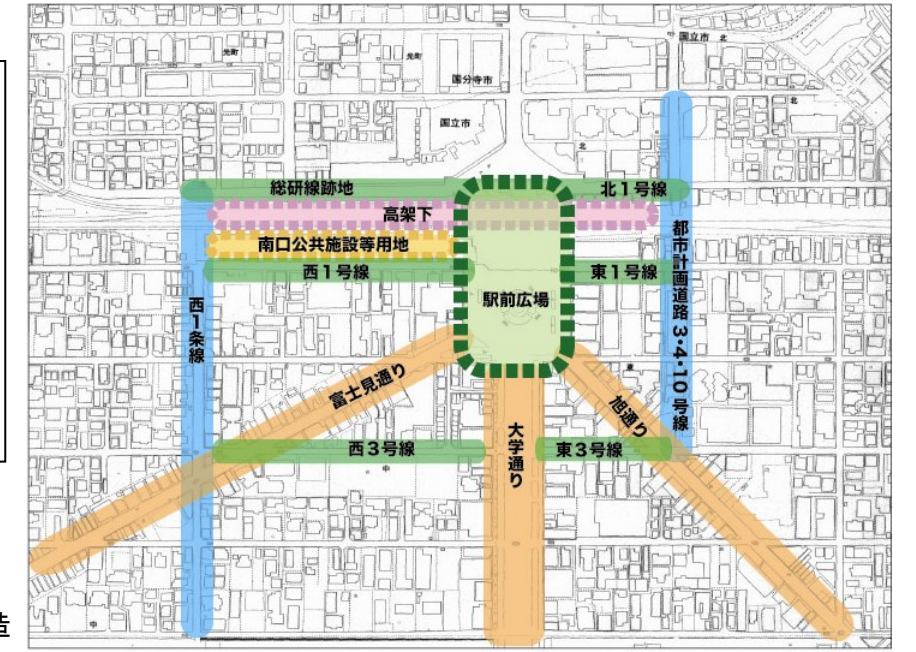


図 国立駅周辺の空間構造

### (7) 国立駅周辺のまちづくりの展開方向

#### ■交通結節点、交流拠点としての駅前広場の再編

- ・バス乗降場、タクシープールの適切な配置、通過交通の抑制による人中心の広場への転換
- ・市内外の人々が集う交流拠点、駅周辺歩行者ネットワークの中核としての位置づけ

#### ■環境負荷低減を先導するまちづくりのシンボルとしてのイメージ向上

- ・交通混雑による環境負荷低減のための駅周辺市街地の分散化
- ・公共交通や自転車利用の促進
- ・駅周辺における総力戦的な環境施策の展開

#### ■大学通りからつながる駅周辺の景観的価値の向上(イメージ向上)

- ・旧駅舎の復原・活用による駅周辺のシンボル性の向上

#### ■南北市街地の一体化や周辺商店街の魅力向上

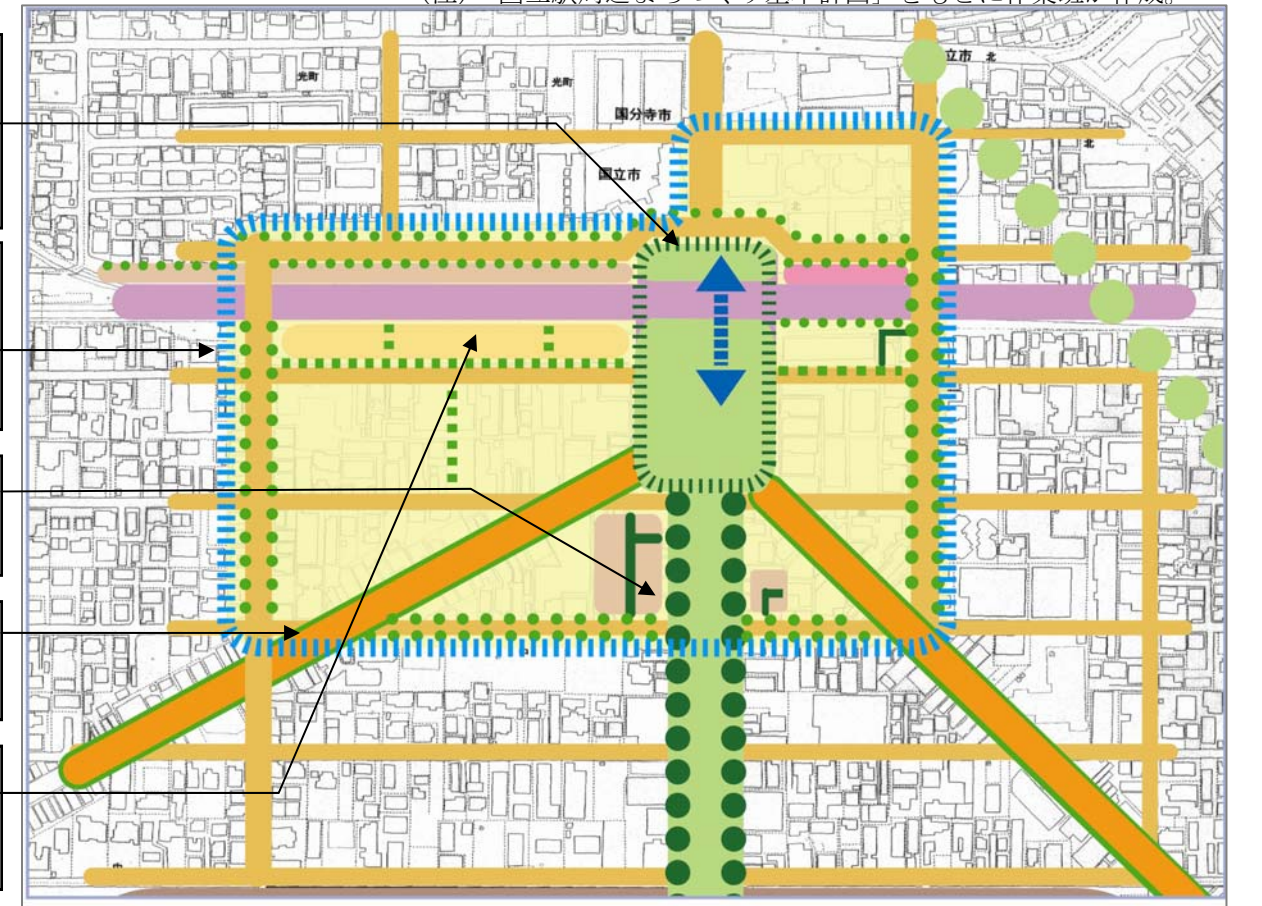
- ・適切な交通処理による歩行者空間の創出
- ・南北駅前広場を中心に安全・快適に回遊できる動線づくり

#### ■文化発信拠点としての南口公共施設等用地、高架下の活用

- ・行政サービス施設・文化施設や福祉施設など、市民の生活を支える施設の整備
- ・市民のための駐輪場・駐車場の整備

図 国立駅周辺の将来空間構造イメージ

(注)「国立駅周辺まちづくり基本計画」をもとに作業班が作成。



3 国立駅周辺まちづくりと交通

■国立駅周辺まちづくりを支える交通の基本的な考え方

国立駅周辺まちづくりの理念・目標に基づき、駅周辺において新しい魅力を形成するためには、人が快適に回遊できる環境づくりが必要である。

公共交通等による移動の利便性の向上や駅前広場を通過する交通の抑制などにより、人中心の国立駅周辺に近づける取り組みを行うことが必要である。

平行して、駅周辺の限られた道路空間の使い方を見直し、人、自転車、公共交通、車の適切な棲み分けを行っていくことが必要であり、そのためには、現在の道路の使われ方や、周辺の土地利用のあり方等を総合的に検討し、各道路の性格を見極めながら検討を進めることが必要である。

国立駅周辺の交通に関する基本的視点・方向性  
～車優先から人を中心とした交通政策への転換～

**視点1 自動車交通のコントロールによる安全性・快適性の向上**

・駅周辺を「人を中心としたエリア」として位置づけ、南口駅前広場への通過交通の抑制、駅周辺の自動車利用の低減などにより、人が安全で快適に歩ける交通環境を創出する。

**視点2 「歩き」と「自転車」利用の促進**

・「人を中心としたエリア」において、バリアフリー化、歩行者空間の拡充等を図り、人が快適で安全に歩ける歩行者環境を創出する。  
・また、自転車動線の位置づけ、自転車駐輪場の整備、自転車動線の環境整備等により、自転車を適切に利用できる環境を整備するとともに、「自転車の似合うまち」の展開の中心的なエリアとしていく。

**視点4 駅前広場の再編、道路空間の再配分による交通課題の解消**

・「人を中心としたエリア」の中心である「駅前広場」では自動車動線・交通機能の再編、歩行者空間の拡充などが共存する空間整備により、通過交通の抑制を図る。  
・また、エリア全体では、道路の機能分担を踏まえた、歩行者、自転車、自動車が共存する空間整備とともに、交通に関するルールづくりを進め、駅周辺の交通課題の解消を図る。

**視点3 公共交通を軸とした交通システムの充実**

・駅周辺へのアクセス機能向上や交通結節機能の向上などにより、公共交通を軸とした交通システムの充実を図る。

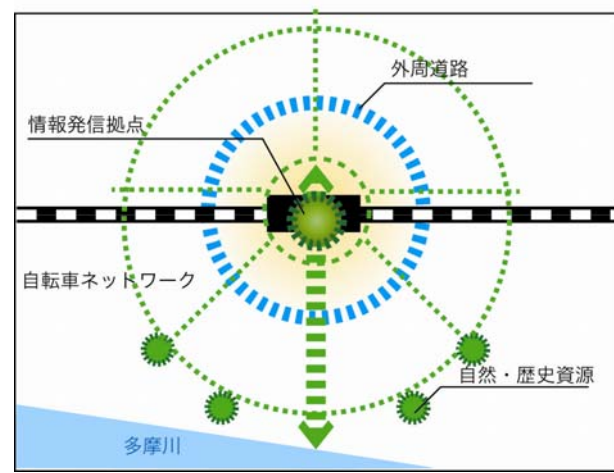
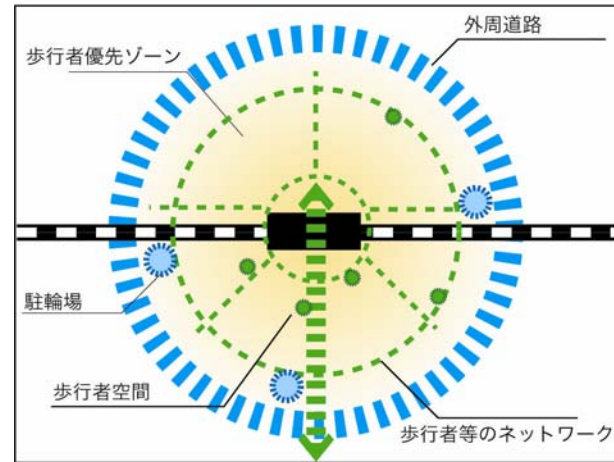
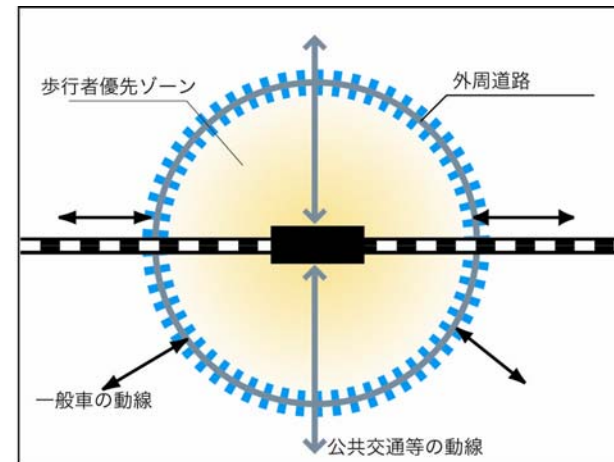
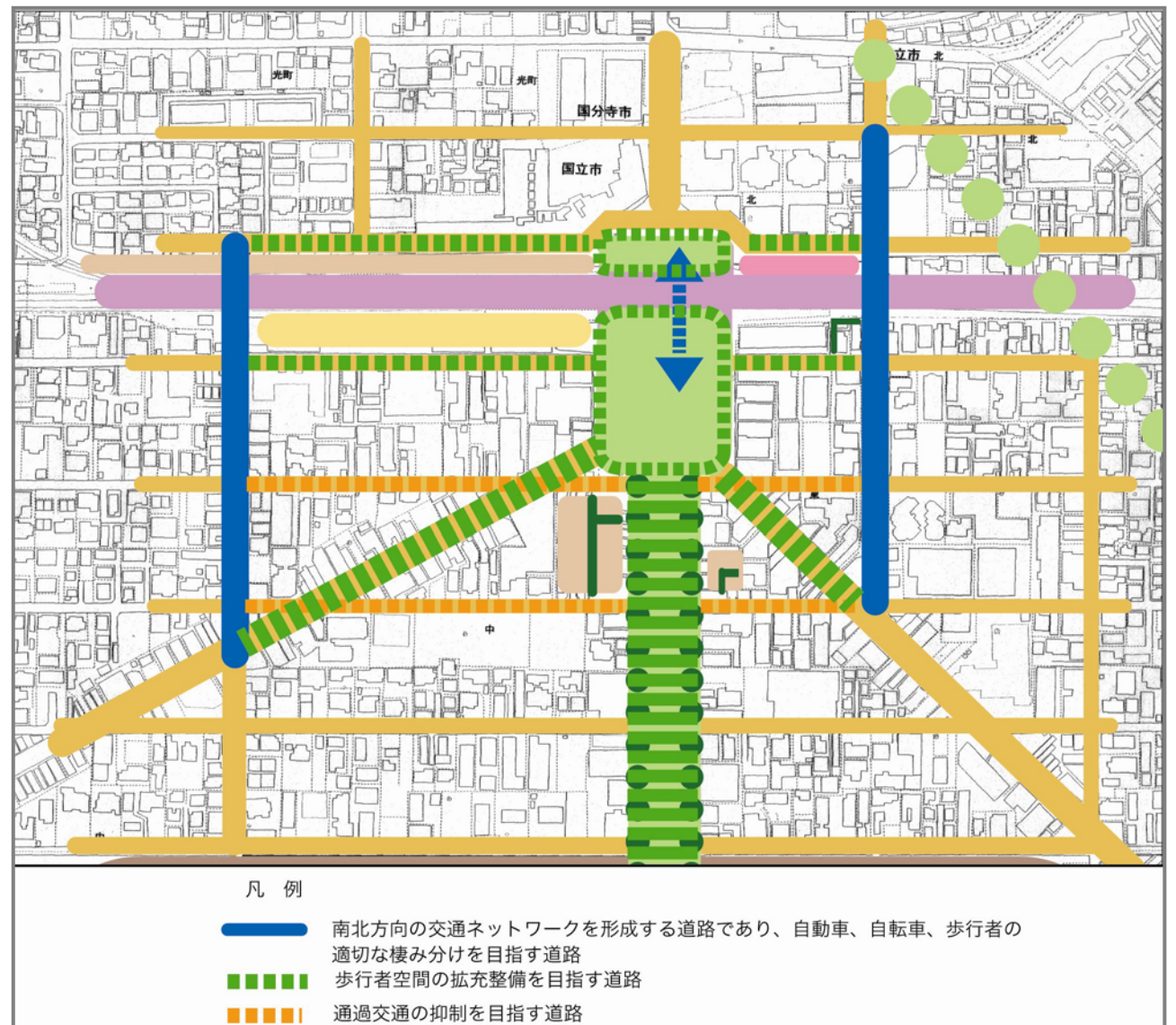


図 国立駅周辺における道路の機能分担の考え方

(注)「国立駅周辺まちづくり基本計画」をもとに作業班作成。



**(参考) 交通に関する世界的な傾向**

○交通基本法 (フランス)  
交通基本法に基づく将来交通計画PDUで、「自動車交通を減らす」ことが目的として義務化され、LRTや自転車の空間が整備されている。

○コンプリートストリート (アメリカ)  
安全、医療、輸送等の観点から、道路を自動車だけでなく歩行者や自転車にも優しいものにするべきという「完ぺきな道(コンプリート・ストリート)」運動が展開されている。

3 -(1) 歩行者ネットワーク

視点2 「歩き」と「自転車」利用の促進

■都市マスタープランにおける「交通」の方針

歩きやすいまち、歩きたくなるまち

- ・東西に約2km、南北に約4kmの小さな国立ですが、多様な要素のあるまちです。このまちの移動手段の基本を「歩き」と位置付け、高齢者や障害者を含む誰もが楽しく、安全に歩くことができるように、都市空間のバリアフリー化を促進します。一方、交通手段である鉄道、バス、自家用車、自転車などは、「歩き」を含めたお互いの連携を考える必要があります。
- ・また、市内の通過交通については、市民の合意形成を図り、必要であれば計画の見直しを行い、周辺の住環境や歩行者環境に配慮したまちづくりをめざします

■歩行者ネットワーク整備の考え方

網目状のネットワークの形成と  
魅力ある歩行者空間の創出  
～「歩く」ことを楽しめる街へ～

○歩行者主動線のネットワーク化

- ・歩行者の主動線として、南北駅前広場と周辺市街地を結ぶ大学通り、富士見通り、旭通り、都市計画道路 3・4・10 号線、西1条線、北1号線を位置づけ、駅南北(高架下、南北通路)をネットワーク化する。

○歩行者主動線を補完する歩行者空間の拡充

- ・歩行者主動線を補完する重層的な歩行者ネットワークの形成を図る。
  - －南口駅前広場から西側(高架下、南側公共施設等用地)における南北方向の歩行者動線の確保。
  - －東1号線、西1号線等における歩行者空間の拡充整備

○バリアフリー環境の整備

- ・駅前において、バリアフリーの環境を整備する。特に歩行者の主動線については重点的にバリアフリー化を進める

○民有地との連携した歩行者空間整備

- ・主要な歩行者ネットワーク沿道の敷地において見られる壁面後退等による公共的な賑わい空間など地域独自の生活文化空間の形成を後押しし、歩行者動線とそれに面する賑わい空間の一体的な利用を促進。歩行者が佇むことができる、魅力ある都市空間を「人を中心とするエリア」全体に作りだす。
  - －敷地内通路などの「通り抜け」空間の整備推進
  - －壁面線後退などによる歩行者空間の拡充・魅力化 など

■歩行者ネットワークの整備に向けた取組み方策(案)

○安全で快適に歩ける歩行環境の強化

- 例えば、
  - ・歩道の拡幅・整備
  - ・ネットワークの形成
  - ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン
  - ・溜り場の整備(街かど、大学通り緑地の溜り空間)
  - ・阻害要因の排除(無電柱化、違法駐輪の取締)

○歩行をサポートする休憩・退避施設等の整備確保

- ・休憩スペース等の情報提供
- ・トイレ等の整備

○「歩く」楽しさを加える景観・緑の整備

- ・季節を感じる道(街路樹、植栽帯)の整備
- ・花壇、生垣

○「歩く」ことを補完する公共交通の利便性向上

- ・バス、タクシー、自転車
- ・駐輪場、駐車場の整備

○歩行行動のきっかけ・目的となる施設等の立地・誘導

- ・公共・公益施設等
- ・国立ならではのコンテンツ(国立野菜、お菓子など)
- ・多世代交流の場

○地域コミュニティによる「歩くこと」を支えるサービス

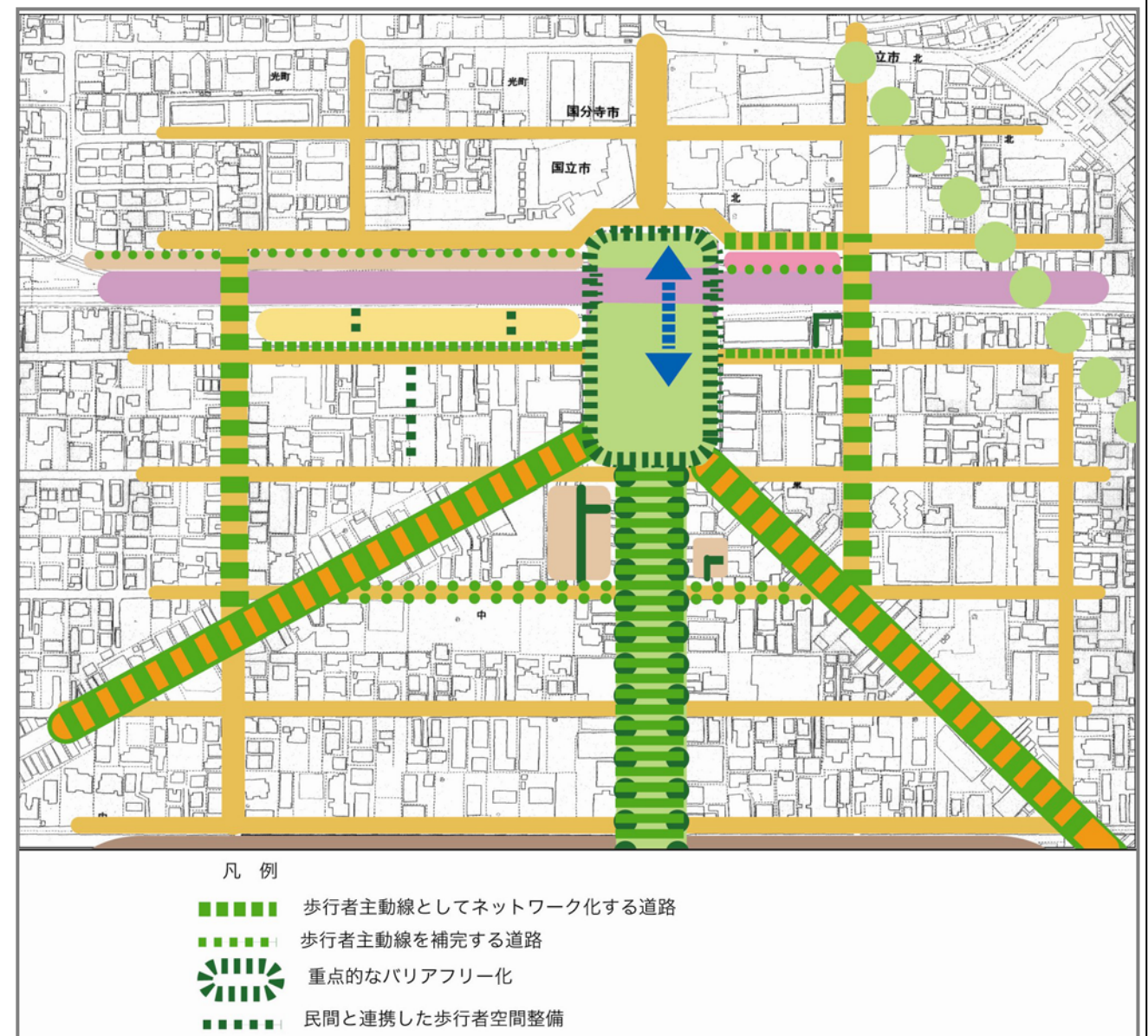
- ・ショッピングカートの共同利用
- ・買い物の際の荷物の宅配サービス
- ・花・緑の演出による「おもてなし」など

○「歩く」ことの意義・効果に関する普及・啓発活動

- ・「歩いて桜を楽しもう」「歩く」ことの楽しさや意義、効果を理解してもらうプログラム・イベント
- ・「歩く」ことへの健康効果の発信
- ・「歩く」きっかけとなるマップづくり

図 国立駅周辺における歩行者ネットワーク整備のイメージ

(注)「国立駅周辺まちづくり基本計画」をもとに作業班作成。



# 国立駅周辺まちづくりの方向

## 3 -(2) 自転車ネットワーク

### 視点2 「歩き」と「自転車」利用の促進

#### ■国立市において自転車利用を促進する理由 (出典：自転車の似合うまちづくり検討会 提言書)

- ・国立のまちの大きさと起伏の少ない地形条件が自転車に適している
- ・国立各所に多様な資産が分散しており、自転車の散策に適している
- ・国立は大きな幹線道路が少なく、安全で快適な自転車利用に適している
- ・国立の自然環境と住宅環境を守る上で、自転車利用が適している

#### ■歩行者ネットワーク整備の考え方

### 「自転車の似合うまち」の拠点としての駅周辺整備

#### ○駐輪場までの自転車主動線の位置づけと環境整備

- ・駅周辺における駐輪場までの自転車の主動線を、都市計画道路3・4・10号線、西1条線、西3号線と位置づけ、自転車動線の環境整備を図る。

#### ○「人を中心とするエリア」周辺への駐輪場の整備

- ・「人を中心とするエリア」周辺部への駐輪場の整備を行なう。
  - －南第2駐輪場の再整備
  - －高架下への鉄道利用者、駅周辺施設利用者を対象とした駐輪場の整備
  - －南口公共施設用地で検討中の市公共施設への自転車アクセスを可能とするための、駐輪場の確保

#### ○民間と連携した駐輪スペースの分散確保

- ・地区全体における放置自転車対策、自転車利用の推進のため、敷地内への自転車一時置き場の設置などについて地元商店会や地権者等との連携を進める。

#### ○市域全体への回遊の拠点的な役割の確保

- ・地域全体としての自転車利用、自転車を活用した市内観光・回遊性の創出のため、新たな自転車の活用について、検討する。

#### ■自転車ネットワークの整備に向けた取組み方策(案)

##### ○自転車主導線の安全で利用しやすい整備・拡充

- ・自転車歩行者道路等にわかりやすい標識を設置
- ・電線・電柱の地中化などにより走行空間を確保
- ・2車線以上の道路の一方通行化により走行空間を拡充
- ・自転車道や自転車歩行者道路などの路面を走行しやすく整備
- ・自転車道や自転車歩行者道路の拡充

##### ○利用しやすい駐輪場の整備

- ・利用しやすい公共駐輪場の配置・整備 (JR 国立駅に高架下駐輪場を確保)
- ・商店街等の連携による一時利用駐輪スペースの拡大
- ・「とめたくなる」自転車ポートのデザイン・整備

##### ○自転車利用、駐輪場利用に関する総合的な情報提供

- ・駐輪場の表示
- ・マップ等を活用した駐輪場位置の情報発信

##### ○地域コミュニティ等による「自転車利用」を支えるソフト施策

- ・自転車修理・相談などのサービス提供
- ・駅前広場全体の環境向上にあたる「広場守(ひろばもり)」の配置

##### ○市域への回遊を誘発する取組み

- ・回遊を誘発ルートマップの作成
- ・拠点施設へのサイクルポート等の整備
- ・市内外の人々に向けたレンタサイクル等の仕組み

##### ○今ある基本的ルールの普及

- －既存の講演会・学習会の普及啓発
- －自転車の放置や走行の危険性の効果的な伝達
- －国立らしい、自転車利用のエチケットの開発

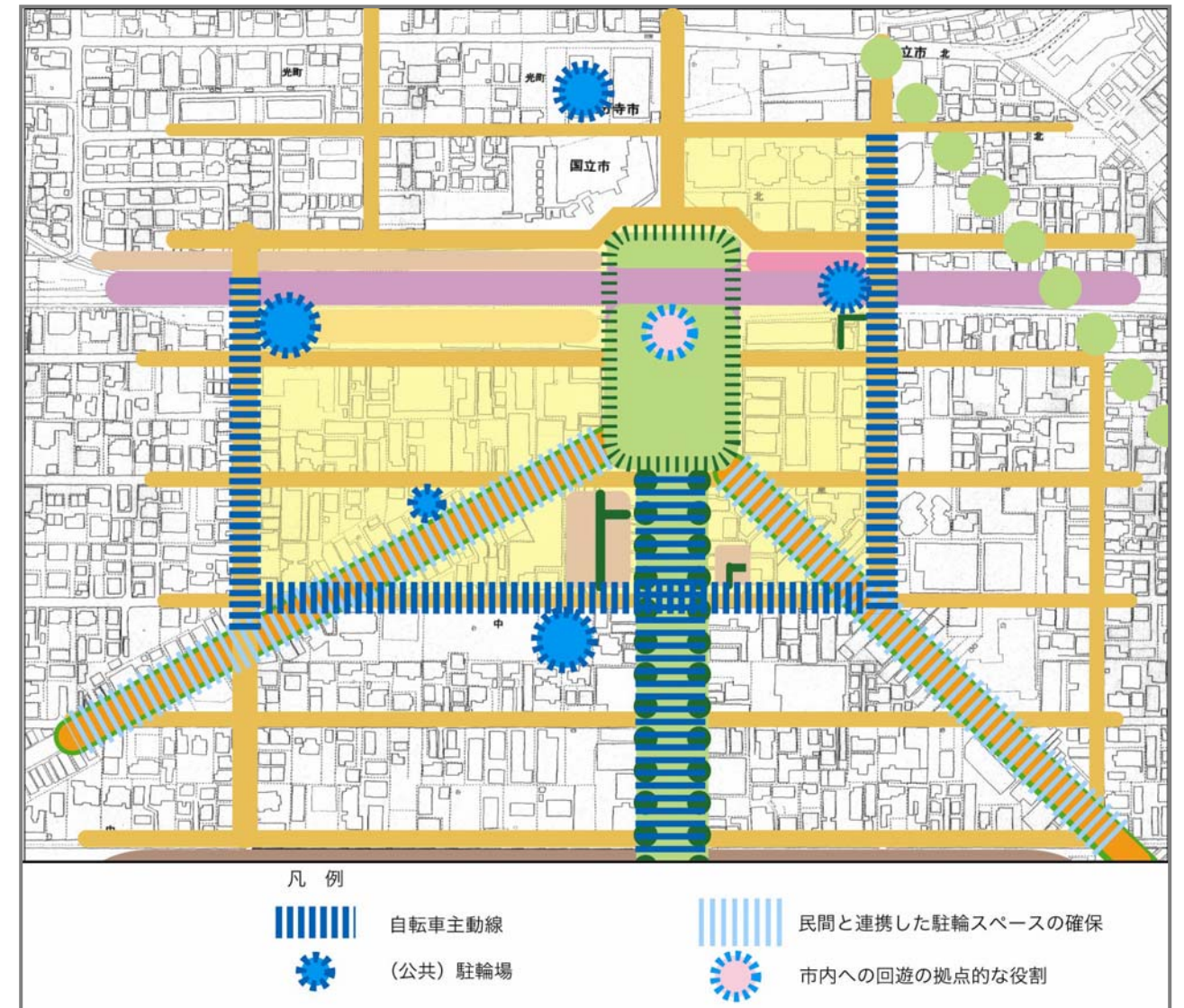
##### ○国立らしいマナーとルールの普及・啓発

- －小学校で自転車について学べる機会の提供
- －中高生や大学生、一般市民を対象とする学習プログラムを開催
- －駐輪場等で自転車に関わる情報を提供
- －効果的な放置自転車対策の実施

##### ○国立らしい新しい自転車利用のルールづくり

図 国立駅周辺における自転車ネットワーク整備のイメージ

(注)「国立駅周辺まちづくり基本計画」をもとに作業班作成。



#### (参考) 自転車に関する国立市の取組み

##### 【施策・計画等】

- 昭和56年3月施行 自転車安全利用促進条例
  - ・この条例に基づき、市による自転車駐輪場の整備、放置自転車の整理、民間事業者(大規模店等)に対する自転車駐車場の設置指導を実施している。
- 国立市都市計画マスタープラン市民提案 (平成13年)
- 国立駅周辺まちづくり計画 (国立市商工会、平成13年度)
- 国立駅周辺まちづくり検討会 (平成12年度)

##### 【市民プロジェクト】

- 自転車共有プロジェクト(り・サイクリング)
- くにたち・まちづくり∞自転車倶楽部

##### 【自転車利用・普及活動】

- 小学校における交通安全教室(立川国立地区交通安全協会)
  - ・小学校1～3年生を対象とした普及啓発活動
- わくわく塾くにたち(建設課交通安全係)
  - ・子供から高齢者を対象とした講座
  - ・交通安全ハンドブックの配布、ビデオ上映自転車の乗り方や安全な交通に関する説明
- 駅前放置自転車クリーンキャンペーン